

播磨・城路への
アクセス



飛行機を利用する

出発地	所要時間
長崎	約1時間
鹿児島	約1時間5分
東京(羽田)	約1時間15分
茨城	約1時間25分
沖縄(那覇)	約1時間50分
札幌(新千歳)	約2時間

※神戸空港からのアクセス

- 鉄 道** 神戸空港→ポートライナー→三宮→姫路(約66分)
- 車** 神戸空港→姫路(約74分)

新幹線を利用する

出発地	所要時間
新大阪	約30分
岡山	約21分
広島	約58分
名古屋	約1時間25分
博多	約2時間14分
東京	約3時間5分

JR姫路駅

JR(新快速)を利用する

出発地	所要時間	到着地
三ノ宮	約37分	JR 姫路駅
大阪	約57分	
京都	約1時間36分	

車を利用する

出発地	所要時間
京都	約1時間50分
大阪	約1時間25分
神戸	約1時間
岡山	約1時間30分
広島	約3時間

船を利用する

姫路港 — 約30分 —▶ 家島

播磨圈域連携中枢都市圏

姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町

※掲載している情報は2016年3月現在のものです。

兵庫・播磨圏域 移住・定住ガイドブック

はり ま
Welcome 播磨



CONTENTS

播磨で暮らす／すごいよ 兵庫・播磨圏域／移住・定住者インタビュー だから、播磨に住んでます
播磨圏域15市町紹介／主な移住・定住支援制度／播磨圏域・姫路へのアクセス



※播州弁で「心地良い」の意味

桜

A group of young women in colorful traditional Japanese kimonos are seated in a row on a red carpet, playing shamisen (three-stringed lutes). They are performing at an outdoor festival. In the background, there are several vertical banners with Japanese text, a white tent, and a large building, likely a castle or temple, under a cloudy sky.

姫路城観桜会(姫路市)



新舞子浜(たつの市)

潮干狩り

梅

綾部山梅林(たつの市)



相生ペーロン祭(相生市)



北条節句祭り

イベント



いかなご(播磨灘)

いかなご

播磨に春を告げる魚といえば、いかなご。獲れたてを釜揚げで楽しんだり、醤油や砂糖で炊き上げるくぎ煮に舌鼓を打ったり。この時期だけの味わいです。



加古太池(稲美町)



羅漢の里(相生市)

アウトドア

ホタル

犬見川(神河町)



揖保川(たつの市)



笠形山(市川町)

魚占釣り

七種の滝(福崎町)



加古川まつり花火大会(加古川市)

花火

丸山県民サンビーチ(赤穂市)

海水浴

無料で利用できるキャンプ場もある丸山県民サンビーチをはじめ、家島諸島(姫路市)、的形海水浴場(姫路市)など、穏やかな瀬戸内の海で海水浴を楽しむことができます。



音水溪谷(宍粟市)

紅葉

溪谷美とともに紅葉を堪能できる音水溪谷から姫路市の書写山円教寺、姫路城を臨む好古園、宍粟市の最上山公園もみじ山、たつの市の龍野公園紅葉谷まで、紅葉が美しい名所にも恵まれています。



乙大木谷の棚田(佐用町)

棚田

「日本の棚田100選」に認定された乙大木谷の棚田は一見の価値あり。秋の実りの時期は、黄金色に輝く風景が広がります。



ぶどう(加西市、上郡町、佐用町)



ゆず(姫路市、神河町)

フルーツ

ぶどうにゆず、赤穂市のみかんなど、旬のフルーツや味覚狩りがたっぷり楽しめます。

秋の味覚がいっぱい！



砥峰高原(神河町)

ススキ

砥峰高原では、金色のススキの穂が波打つ絶景に出会えます。

イベント

神輿をぶつけ合う灘のけんか祭りに、古式ゆかしい船渡御で有名な坂越の船祭は播磨の秋の風物詩。太子町のあすかふるさとまつりや加古川市のソーデーマーチ、高砂市のたかさご万灯祭など、この季節は祭りやイベントがめじろ押しです。



灘のけんか祭り(姫路市)



坂越の船祭(赤穂市)



かさかた温泉(市川町)

温泉

寒い日には赤穂温泉やかさかた温泉、宍粟市の波賀温泉、一宮温泉、姫路市の塩田温泉など、ゆっくり過ごせる天然温泉へ。体も心も温まります。



赤穂温泉(赤穂市)

心も体もリフレッシュ！



牡蠣(赤穂市、相生市、たつの市、姫路市)

牡蠣

播磨灘が育てたカキは冬の味覚の王様。赤穂市や相生市、たつの市、姫路市の名産です。



赤穂義士祭(赤穂市)

イベント

忠臣蔵パレードで盛り上がる赤穂義士祭は、毎年赤穂義士討ち入りの日12月14日に開催。元禄絵巻そのものの光景が繰り上げられます。



ちくさ高原スキー場(宍粟市)

スキー

宍粟市にはちくさ高原スキー場とばんしゅう戸倉スノーパークが。スキーやスノーボードがのびのび楽しめます。



法華山一乗寺(加西市)



刀田山鶴林寺(加古川市)



斑鳩寺(太子町)



生石神社石の宝殿(高砂市)

神社仏閣

播磨の歴史を物語る神社仏閣や名所旧跡がエリア内に多数点在しています。歴史散策を心ゆくまでどうぞ。

autumn

秋

winter

冬

すごいよ

兵庫・播磨圏域

兵庫・播磨圏域は、恵まれた地理的条件の下、古くから独自のものづくりを発展させてきました。現在では世界的な科学技術基盤や、高度医療、交通網なども充実。誇るべき技、産業、生活基盤が揃っています。



高度医療

兵庫県立加古川医療センター（加古川市）を基地病院、製鉄記念広畑病院（姫路市）を準基地病院として、播磨地域をカバーする兵庫県ドクターヘリを運航し、救急患者の広域搬送と救急医療処置に対応しています。また、両病院ではドクターヘリを補完するドクターカーの運用による搬送体制の充実も図られています。



兵庫県立加古川医療センター

いち早く
救急医療が
行えます！

迅速な救命活動を可能にする ドクターヘリ

医療機器を搭載。医師や看護師が搭乗し、いち早く救急医療が行える機能を備えています。播磨エリア全域を対象に、高度な医療サービスの一環として運用中です。



ドクターヘリ

教育

圏域在住者の社会教育活動を支援するため、図書館や博物館といった社会教育施設の相互利用を展開。その一環として、4歳から中学3年生までの児童・学生を対象に姫路城、姫路科学館等を無料で利用できる「どんぐりカード」を配布しています。また、兵庫県立大学、姫路獨協大学、姫路大学、兵庫大学、関西福祉大学、神戸医療福祉大学、姫路日ノ本短期大学、兵庫大学短期大学部などの高等教育機関が充実しています。



姫路市立城内図書館



世界文化遺産・国宝 姫路城

世界文化遺産

国宝姫路城は、国内に現存する最大の城郭建築で、奈良の法隆寺とともに、日本で初の世界文化遺産となりました。海外からの旅行者にも人気が高く、2015年度には日本の年間入城者数の最高記録を更新しました。

農林水産業

トマトにたけのこ、メロンなど地域ブランドも豊富な農産物に、サバやアナゴ、ノリなどに代表される播磨灘の恵み。播磨は、農業も水産業も元気です。山間部では林業も古くから行われています。



トマト



焼きアナゴ



サバ



いなみ野メロン

産業・伝統工芸

沿岸部には播磨臨海工業地帯が広がり、鉄鋼業や製造業を中心に発展を続けています。一方で、日本酒や手延素麺、醤油、塩、皮革、ゴルフクラブ、帆布製品、竜山石など、各地域の風土に適した製品の産地が点在。確かなものづくり力が地場産業として受け継がれています。また、澄み渡った音色の風鈴で知られる明珍火箸や、日本三大緞通に数えられる赤穂緞通、江戸時代から続く姫路仏壇、播州山崎藍染織など、長い歴史と地域の伝統に培われた工芸品が数多くあります。



明珍火箸



ゴルフクラブの製造



帆布製品（松右衛門帆布）



赤穂緞通

技術が
受け継がれて
います！

研究機関

世界的な科学技術施設が集積する播磨科学公園都市には、世界最高水準の大型放射光施設「SPring-8」や、X線自由電子レーザー施設「SACLA」など、最先端の科学技術基盤が備わっています。また兵庫県立先端科学技術センターなども立地しており、充実した研究・学術施設が整っています。



大型放射光施設「SPring-8」©RIKEN



播磨科学公園都市

研究・学術
環境が充実
しています。

交通網

中国自動車道、山陽自動車道、播但連絡有料道路などによる道路網や、新幹線、JR各線をはじめ地域に密着したローカル線が結ぶ鉄道網とも充実しています。大型客船が寄港できる姫路港からは家島諸島への定期便が発着。便利な生活の足として利用されています。



こんなことも！播磨のすごいところ

日本最古の風土記の1つ 播磨国風土記

播磨国風土記は、2013年に編纂1300年を迎えた日本最古の風土記です。播磨地域の歴史や自然、神話などが記された、当時の人々の暮らしをうかがい知ることができる貴重な資料です。

公開望遠鏡で世界最大 「なゆた望遠鏡」

佐用町にある西はりま天文台には、一般公開されている中で世界最大の「なゆた望遠鏡」があります。100億光年先の宇宙を肉眼で見る、かけがえのない体験が待っています。



どんなスキルもキャリアも生かし方しだい

北原雅樹さん | 加古川市

大阪出身の北原さんは高校時代に上京。芸能人として活躍してきましたが、結婚し子どもが生まれた頃から、両親が暮らす加古川市で新しい仕事に就くことを決断。2008年10月に引っ越してきました。ところが転職はうまくいかず、35歳になった時、芸能界への復帰を考えます。思い切って出向いたのが地元のケーブルテレビ局BAN-BANテレビ。ここで新番組をまかせてもらえることになり、道が開けました。個人事務所を開設し、昨年はNHKの「マッサン」「あさが来た」に出演したほか、「即劇遊団あどり部」も旗揚げしました。

「どんなスキルもキャリアも生かし方しだい。その場所に合うやり方があると思うようになりました」と北原さん。撮影があれば大阪や東京に出かけますが、不便は感じません。むしろ2人のお子さんと過ごす時間は加古川市に来たことで充実したと感じています。「この街の空の広さや夕やけの美しさをあの子たちは一生忘れないと思います」。遠回りしたものの、大切なものはやはり好きな仕事、家族と過ごす時間。北原さんは今、その両方を東京とは違うスタイルで楽しんでいます。



夫婦で地域の情報をお届けしています！



「即興芝居の劇団を旗揚げしました」と北原さん



番組の生放送前に打ち合わせ

子どもを見守る温かさを実感

竹内晃久さん、鈴子さん、晃輔くん、那々子ちゃん | 相生市



家族みんなが満足できるまちです

北陸出身の竹内晃久さん、鈴子さん夫妻は、結婚を機に相生市での暮らしを始めました。播磨科学公園都市内で働く晃久さんの「職場と程よい距離」という希望と、当時大阪に職場のあった鈴子さんが通勤するための「新幹線の駅があるまち」に当てはまったのが相生市でした。「神戸や大阪まで通っている人は多いです。駅近くの物件も多いですね」。周囲に知人が少なく、当初は「ここで子育てしようとは思ってませんでした」と振り返る鈴子さん。そんな気持ちが変わったのは初めての出産の際、市の子育て学習センターでたくさんの人とつながりを築けたためでした。「お母さんの悩みに熱心に対応してくださり、友達もできました」。出会いを生かし、ママのアイデアを出し合って手づくりの絵本を作るサークルや、アレルギーに関する情報交換をする「アレルギーママの会」を立ち上げ、さまざまな手応えを得てきました。晃久さんは「子どもも妻も友達がたくさんいてここ以外考えられなかったですね」。鈴子さんは「幼稚園から中学校まで完全無料の給食や通学路の見守りボランティアなど、子どもが大事にされていると感じます」。地域全体で子どもを見守る温かさを感じて暮らしています。



「子どもたちに、ここが自分の育った場所だと思ってほしい」と晃久さん、鈴子さん

子育ても仕事ものびのび楽しむために

オキャラハン・カールさん、恵梨さん、咲月ちゃん、クインランくん、椿月ちゃん | たつの市



山にも川にもいっぱい行けるね

今春、たつの市に移住するオキャラハンさん一家。イギリス出身のカールさんと大阪出身の恵梨さんは東京で忙しく働きながら、「定年後は田舎でのんびり暮らそう」を合い言葉にしてきたといいます。以前から移住関連のイベントに参加して情報を集めていましたが、たまたま見つけた空き家が気に入ってたつのへの移住を決めました。「子どもが生まれてからはとくに都会での生活が息苦しくて。計画を何十年か前倒しすることにしました」と恵梨さんは話します。周囲にはあふれる自然。子どもたちをのびのび育てたいと願っていた夫妻にはぴったりの環境でした。「周りの人たちがもびっくりするほどいい人ばかり。すごく歓迎してくれました」とカールさん。住宅取得奨励金や子どもの医療費無料など市の移住支援・子育て支援が充実している点も決め手になりました。

春から始まる新しい生活。カールさんはこれまでのキャリアを生かして日本と海外の企業を結びビジネスを立ち上げる予定です。恵梨さんは子どもたちと過ごす時間を大切にしながら、まずは地域で活動したいと考えています。



古民家を改装して住む予定。「自分たちで補修するのも楽しい」とカールさん、恵梨さん

新規就農には地域の応援が不可欠

櫻井健一さん | 加西市

真っ赤に熟したトマトが収穫の時期を迎え、ビニールハウスの中で忙しく立ち働く櫻井さん。中玉と呼ばれる小ぶりのトマトと大玉トマトを秋から初夏にかけて生産。「かさい愛菜館」など地元の直売所に出荷しています。農業を始めたいと神戸の勤め先を退職したのは2003年、36歳の時。加西市にある兵庫県立農業大学校で研修を受けるため、仮住まいのつもりで妻と子ども5人で加西に引っ越してきました。同時に就農の地探しもスタート。県内各地を見て回りましたが、結局、加西が一番良かったといいます。

「地元の人が応援してくれたことが大きかった。新規就農者に対して温かく、住まいや田んぼも借りることができましたから」と櫻井さん。兵庫県と加西市の支援制度を利用して、2004年、念願だった就農を果たします。以来、生計が立てやすいと助言されたトマト作りに没頭。周囲のトマト農家の指導を仰ぎながら技術を向上させてきました。「大変なことも多いですが、その分、『おいしい』と言ってもらった時のうれしさは格別です」と話す櫻井さん。自慢のトマトは、「桜ファーム 櫻井健一」のブランドで人気を呼んでいます。

うちの自慢の畑です！



おいしいトマト、ぜひ食べてください！



作業は早朝からすべて一人で行っています。今後は土作りの研究にも励む予定です

移住・定住者インタビュー

だから、播磨に住んでます

播磨に移住。そのきっかけや理由はさまざまです。そして、その暮らしもちろんさまざま。なぜ、播磨に住んでいるのですか。なぜ、播磨を選んだのですか。播磨での毎日はどんなふうですか。移住を経験して今、播磨で暮らしている方々にお聞きました。

家島の魅力を多くの人に伝えたい

中西和也さん | 姫路市

姫路港から船で約30分、瀬戸内海に浮かぶ家島諸島。新鮮な海の幸と水辺のレジャーが人気のこの地で、島の魅力を発信し、島を盛り上げていくためのさまざまなプロジェクトを企画する「いえしまコンシェルジュ」の運営に携わっているのが中西和也さんです。

元々大阪で建築関係の仕事に就いていた中西さんでしたが、“なぜ人口が減っているのに新しい建物を建て続けなければならないか”の疑問が頭から離れずにいたところ、家島のゲストハウスプロジェクトを知って参加。それをきっかけに島の魅力に取りつかれ、2011年に移住しました。

そんな中西さんが現在取り組んでいるのが、家島の隣・男鹿島にある空き家を改装してゲストハウスにするプロジェクトです。メンバーは全国から約30名が集まり、遠くは千葉県から参加している学生も。完成予定は2017年の春。「この地を拠点にして、さらに家島を楽しんでもらえるプログラムやプロジェクトを立ち上げていくので、もっと多くの人に家島のことを好きになってほしい」。太陽を受けて輝く海を前に、中西さんの夢が大きく広がります。



きれいな海と
温かい人々が
魅力です



有効活用法の企画から改装工事まで、メンバーたちが協力して行っています



全国からメンバーが集まる海の家ゲストハウスプロジェクト



夫婦でお出かけ
できるところが
たくさんあります

移住先の良さをどんどん見つけよう

大月眞一さん、妙子さん | 赤穂市

「今日は近所の神社でとんど祭りがあって参加してきました」と笑顔で話すのは、2013年12月に京都府内から赤穂市に移住した大月さん夫妻。眞一さんの定年4年前から、「海の近い、落ち着いた場所で暮らしたい」と移住を検討し始めました。「名前しか知らなかった」赤穂市を訪れたきっかけは、市内で暮らす親戚の勧め。雰囲気が入った二人は、その後約1年をかけて希望の物件を見つけました。市役所へも相談に訪れ、引っ越し後に「転入者定住支援金」を申請。「日用品をそろえるのに役立ちました」と振り返ります。

日常生活の中で観光気分を味わえるのが赤穂市の魅力の一つ。眞一さんは「温泉もあり、海の幸美味しい牡蠣ありの豊かで落ち着いたまち、赤穂御崎から海沿いの遊歩道の散歩は格別！また、赤穂海浜公園の海と桜は素晴らしいです」。妙子さんは「骨董市や赤穂義士祭など行事も好き。花火大会もいいですよ」と勤めます。病院が多く道が平坦な点や、近隣のひとと声をかけ合うなごやかな環境も、住み心地を良くしています。満足できる移住先にたどりつく秘訣を「移住先のいい所を見つけることが大切ですね。そして何度も下見して、不動産屋さんを決めるのに地元の人に聞くといいですよ」とアドバイスしてくれました。



「赤穂の人たちは人懐っこくてすぐに仲良くなれます」と眞一さん、妙子さん

古民家を住居兼オフィスにして移転・開業

藤原隆博さん | 佐用町



ITと
田舎暮らしは
相性がいいですよ

自宅の畑で野菜を育て、
農作業も家族で楽しんでいます



妻のはつきさん、長男の実力くんとともに2014年8月、佐用町での暮らしをスタートさせた藤原さん。築80年の民家を住居兼自社オフィスにして埼玉から越してきました。2007年に独立後、ITビジネスを順調に拡大していた藤原さんは、一方で「子どもを自然の中で育てたい」「自分たちが食べるものを自分たちで作りたい」という思いを抱いていたといいます。パソコンとインターネット環境があればどこでもできるのがITビジネスの強み。しだいに田舎暮らしを考えるようになり、佐用町に住む学生時代の友人に相談したところ、オフィス移転と家探しが一気に進みました。兵庫県のIT企業進出支援制度と佐用町の空き家バンク制度がうまく活用できたのです。

現在は自宅オフィスでの仕事のほか、町内にある大型放射光施設SPring-8で、研究員をサポートする業務を行い、週末は地域での活動に積極的に参加。ITを使ったまちおこしや農業振興にも取り組んでいます。仕事、暮らし、子育て。すべてを大事にしたいという藤原さん。佐用町に来て良かったと実感しています。



ときにはこんな仕事のやり方も。実力くんも元気に駆け回っています

田舎すぎず、都会すぎず。ちょうどいいまち

子育てサークル「おでかけ」の皆さん | 高砂市

市の子育て支援センターで出会って意気投合。子育てサークル「おでかけ」を立ち上げて活動中の皆さん。現在のメンバーは10家族ほどで、その名の通り、週末を中心にみんなでおでかけして楽しく遊んでいます。この日集まった4組は、転勤で高砂にやって来たご家族ばかり。2009年に群馬から引っ越してきた新原さん夫妻は「神戸や大阪に近いですし、道路網が充実しているからどこへ行くにも便利。だけど、都会すぎない(笑)。自然もいっぱい子育てにはすごくいい環境です」と、住み心地の良さを強調します。

九州出身の濱口さん、日高さん夫妻は「たまたま高砂にきましたが、とてもいいところ」とにっこり。広島からやって来た黒川さん夫妻も「保育園にすぐ入園できてびっくりしました。子育てで家族へのサポートがしっかりしてます」と満足そうです。買い物や病院にも困ることはありません。高砂に住んで良かったですか？の質問には皆さん、イエス！と即答。「のんびりしてるけど、不便じゃない。何かにつけてちょうどいいまち」とその理由を教えてくださいました。

みんなで子育てを
楽しんでいます



新原崇生さん、明日香さん、穂香ちゃん、達平くん
高砂がすっかり気に入って、昨年マイホームを建てました



黒川祐二さん、直子さん、暖馬くん、蒼介くん
「待機児童ゼロ」はうれしい。共働き家庭にも安心です



日高孝平さん、由紀さん、絵くん、榊ちゃん
子育て仲間がたくさんできました。心強い、楽しいです



濱口涼吉さん、裕子さん、要くん、治豊くん
週末の遊び場にも困りません。あっちこっち出かけています

知っておきたい

移住・定住あれこれ

その1 移住までのおおよその流れ

移住したいと思ってから、実際に完了するまでにどのようなことをしていけばいいのか、ここでは簡単にその流れをご紹介します。

STEP 1

目的を明確にする

なぜ移住するのか。その目的を改めて明確にすることで、家族やパートナーの同意が得られるようになります。

STEP 2

情報を収集する

移住・定住情報や支援制度は、各市町のWebサイトをチェック。またパンフレットを発行している市町もあるので、まずは候補となる移住先を考えましょう。東京の移住・定住相談専用窓口でも、各種情報を提供しています。

(移住定住相談窓口)カムバックひょうご 東京センター(→P31)

STEP 3

まちに行ってみる

候補地がいくつか出てきたら現地を訪ね、土地の雰囲気や暮らしを感じてみましょう。地域体験や空き家見学を行っている市町や、移住・定住専用のワンストップ窓口を設けている市町もあります。

各市町のWebサイト・相談窓口
→市町紹介ページ(P14~)

STEP 4

仕事を探す

移住先にどのような求人があるか、播磨圏域各所のハローワークで探してみましょう。また播磨での就職に特化した就職情報サイト「はりまっち」も役立ちます。

就労・起業支援→P30

STEP 5

家を探す

空き家バンク制度を設けている市町があるので、住まい探しの参考になります。また一部の市町では新築住宅の購入助成などがあり、各種条件に該当すれば助成を受けることができます。

空き家バンク制度→P31

STEP 6

移住する

住み始めるにあたって、まず地域の方々へご挨拶。そして地域の行事へ参加するなど、積極的に交流を深めていきましょう。

季節を感じながら 自然とともに暮らす毎日

生澤幸雄さん、たえ子さん | 神河町

退職したら田舎で暮らそう。そう決めて、定年を迎える2年ほど前から移住先を探して全国を巡った生澤さん夫妻。見て回った中で、もっとも気に入ったのが神河町の自然環境と現在の住まいでした。決め手になったのは、山があり、川があり、田んぼがあったこと。「迷っていたら踏み切れなくなる」と幸雄さんが退職した翌月の2010年1月、愛知から引っ越してきました。幸雄さんが楽しみにしていたのは米作り。集落の人に教わりながら、最初の年からおいしい米を収穫しました。大工仕事にも腕を振るっています。たえ子さんは趣味だった野菜づくりと和雑貨の製作を続けています。「あれもしたい、これもしたいで一日があつという間です」と幸雄さんがいえば、たえ子さんは「それぞれが好きなことを好きにしている毎日です」と笑います。見上げれば、播磨の名峰千ヶ峰。自宅のすぐそばを清流越知川が流れます。「ここへ来て、季節の移り変わりをすごく感じるようになりました。それが一番良かったことかな」。自然とともに暮らす日々を夫婦仲良く楽しんでいます。



夢の田舎暮らし、
実現しました



大工仕事好きな幸雄さん。
離れを改修して新しい部屋を作っています



野菜作りはたえ子さんの担当。
立派なダイコンが育ちました



築130年の
古民家を
リフォーム中です

自然の中で 家族と過ごす 幸せな時間

森智志さん、麻衣さん、琉花ちゃん、琉馬くん | 宍粟市

虫のとり方も知らないし、川で泳いだこともない。都会育ちの智志さんは、自分ができなかった体験を子どもたちにはさせたいと考えてきました。神戸のマンションに住み、カーディーラーの自動車整備士として忙しく働く毎日。子どもの寝顔を見るばかりの日々を寂しくも感じていました。琉花ちゃんに続き琉馬くんが誕生したのを機に自然豊かな地への移住を決断。麻衣さんが勤めていた縁で時々遊びに来ていた宍粟市で住まいと仕事を探すことにしました。住まい探しは市の空き家バンクを利用。智志さんの仕事探しは地元のハローワークを通じて自宅に近い自動車整備工場に決まりました。引っ越しや住宅改修など、移住者対象の市の助成が充実していたのも有り難かったと2人は言います。2015年6月に引っ越し。長く住み続けるため、母屋は秋から本格的なリフォームをしています。「地域の皆さんにはすごく歓迎してもらいました」と麻衣さん。智志さんは「家族で過ごす時間が増えて本当に楽しい。子どもたちも自然の中でのびのび育っています」とはつらつとした笑顔で語ってくれました。



大工仕事好きな智志さん。
修繕や補修もお手のもの



近くには大きな公園も。
夏には川遊びを楽しむ予定です

知っておきたい

移住・定住 あれこれ

その2 移住で必要となる費用は？

移住を考えるにあたって気になるのはやはりお金のこと。どのような費用が必要になってくるのかを事前に確認しておきましょう。

住居にかかる費用はもちろん、 移住先選びの交通費も考慮が必要

移住するときに必要となる主な費用は、住居購入・リフォーム費用、引っ越し費用、車の購入資金・維持費など。その他にも、移住先を検討したり、家を探したりする際に発生する交通費も考慮しておく必要があります。住居を購入する場合、播磨では比較的低価格で空き家を探すことができるため、その空き家を状況に応じてリフォームする、というケースも多いです。

(移住・定住にかかる主な費用)

- 住宅費
- 引越費
- 車の購入費・維持費
- 交通費
- 家具・家電購入費 など

知っておきたい

移住・定住 あれこれ

その3 移住・定住者からのアドバイス

移住する前にやればよかったと思うことや、移住について考えておくべきことなど、経験者だからこそわかるアドバイスを紹介します。

地域の方との交流を深めることが大切 子育て環境の下調べも

移住・定住された方々からは、「地域の方々との交流を深めることが大切」との意見が多く寄せられました。困ったときでもいろいろと助けてもらえることや、地域特有の慣習などについてもあらかじめ聞いておくことができるなど、地域の方々との触れ合いが大切なようです。子育て世帯の方は、「医療のことや幼稚園のことなど、子育て環境を事前に調べておくことが必須」という意見も。各市町で各種助成制度を設けているところもありますので、合わせてチェックするのがいいでしょう。

(その他にはこんな意見も)

車を持っていると移動が
より便利です

地域の活動に積極的に
参加してみよう

市や町の担当窓口でい
ろいろ助けてもらえます

旅行が好きで世界各国を旅してきた長谷川さん夫妻。長く神奈川に暮らしていましたが、清己さんの退職を機に移住を決めました。海外も検討した上で、最終的には国内で住まいを探すことに。インターネットの不動産サイトで見つけてピンときたのが上郡町の現在のお宅でした。昭和30年代の建築で平屋の奥に2階建ての母屋がある構造。和歌子さんが調理師免許を持っていることもあり、「毎日何もしないわけにはいかないし、喫茶店でもやろうかということになったんです」と清己さんは言います。大がかりなリフォームはせず、平屋の2部屋を使って店を開くことにしました。2014年11月に上郡に移り、「カフェウサネコ」をオープン。コーヒーや紅茶のほか、お手製のケーキやトースト、丼物、スパゲティなどを提供し始めると、「安くておいしい」と評判に。今では地域の人たちが集う団らの場としてにぎわっています。店は週4日の営業で、残りの3日は夫婦であちこちへ。和歌子さんは「長い旅に出ているような気分で今の生活を楽しんでいます」とにこやかに話しました。



接客を担当するのは和歌子さん。
心をこめておもてなし



週に4日だけ
オープンの
カフェです

肩肘張らず。 長い旅に出た気分で生活しています

長谷川清己さん、和歌子さん | 上郡町

忙しくも充実のセカンドライフを満喫中

高見亮三さん | 太子町

「町内には文化財が多く、散策が楽しい。交通も便利です」と話す高見さん



人の役に
立てるのが
うれしいんです



町内に住む外国人に日本語を教える「太子日本語教室」。毎週土曜に開かれるこの教室に、高見さんは学習支援ボランティアとして参加しています。「いろんな国の生徒さんがいるので文化も風習も違う。こちらも勉強させてもらっています」という高見さんは2006年、定年退職を機に大阪から太子町に移り住みました。高齢の伯母の面倒を見ようと夫婦で移住を決めたものの、町のことは何も知らず、知人もいませんでした。「勇気がいるけど、こっから飛び込もう」と妻の和子さんとともに地域でのグループ活動を見つけては参加。少しずつ知り合いが増え、「こんなグループもありますよ」「ボランティアをしませんか」と声をかけてもらうようになったといいます。

現在は日本語教室のほか、ニュースポーツの指導、体操サークルや演芸グループの活動などで予定がぎっしり。「忙しいですが毎日が楽しくて。この町に来て、皆さんに仲良くしてもらって、本当に幸せです」と高見さん。「太子はわたしたちにとって一番大事な場所になりました」とにこやかな笑顔で話しました。



ボランティアの皆さんと打ち合わせ。活動の幅を広げることで、仲間も増えていきました

あのまち このまち 15市町

豊かな自然と歴史・文化に彩られた 個性溢れる15市町

兵庫県の南西に位置する播磨圏域。古くから人々の暮らしが営まれてきたこの地域は、山や海、川、平野といった豊かな自然に恵まれ、それぞれの市町で個性溢れる文化や、特徴を生かした産業が育まれてきました。現在、中核都市としての機能を備えた姫路市を中心に、各市町が相互に連携・協力して地方創生に取り組む「播磨圏域連携中枢都市圏構想」が進められています。

日本のほぼ中心に位置 多様な自然が共存する兵庫県

日本標準時子午線が通過する兵庫県。北は日本海、南は瀬戸内海に面し、中央部には中国山地が横たわるほか、平野や島々などさまざまな地形をもっています。各地域の自然環境を背景に食文化や歴史、産業などが発展し、その多様な地域性は日本の縮図ともいわれています。



稲美町

地域産の優良な農作物と
豊かな自然環境が魅力

DATA

人口 31,748人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 34.92km²
世帯数 12,169世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 887.5人/km²(国勢調査 2010年)

豊かな水辺の自然環境を活かした 憩いの場やアクティビティが充実

県内一の面積を誇る加古大池をはじめ約88カ所のため池があり、文化庁の文化的景観における重要地域180カ所の1つに選出された、自然に恵まれたまちです。これらのため池を活かし、バーベキュー場を備えた天満大池公園や、ウィンドサーフィンを楽しめる加古大池など、自然を満喫できるスポットが充実しています。

暮らし応援 いいね！ポイント

① 全ての小学校で 放課後児童クラブを実施

保護者が労働等により昼間不在となる家庭の児童を対象に、適切な遊びや指導を行う学童保育所「放課後児童クラブ」を全ての小学校に設置しています。

共働きの
家庭でも
安心です！



暮らし応援 いいね！ポイント

② 町の小中学校で 安全・安心な地産地消の学校給食を提供

有機肥料や減農薬にこだわり、栄養価が高く、生産者の顔が見える町内産の農作物を積極的に取り入れた給食を考案・提供。農林水産省の「地産地消給食メニューコンテスト」において、8年連続で近畿農政局長賞を受賞しています。



移住者voice

新鮮で安心な食べ物と、 のびのび過ごせる環境が魅力的！

子どもがアレルギーを持っていたので、地元の農作物を使った給食に魅力を感じました。町を盛り上げるため、地元の人たちや移住してきた人たちとともに「いなみさん家(いなみさんち)」というグループを作り、イベントなどを行っています。

原 明里さん(2010年より移住)



check! 親元に住もう 補助金

家族で
支えあって
暮らせます



check! 稲美町こだわりの特産品を 「稲美ブランド」として幅広く展開！

町内で生産、加工、製造された品質の優れた農産物などを町が「稲美ブランド」として認証。減農薬・減化学肥料の野菜や米などがあり、米を使った米パンも作られています。町内各所の直売所で購入することができます。また小中学校の給食でも利用されるなど、安全・安心な食の提供を推進しています。



暮らし応援 いいね！ポイント

③ 出産祝いとして 稲美町特産米の 引換券をプレゼント！

赤ちゃんが誕生した世帯を対象に、稲美町の特産米である「万葉の香」60kg分(2万4千円相当)の引換券をプレゼントしています。



稲美町
わがまち
自慢

水源が地下水だから、
水道水がおいしい！

問い合わせ先

稲美町 経営政策部 企画課政策・行革係 TEL:079-492-9130
<http://www.town.hyogo-inami.lg.jp/>

加古川市

子育て支援が整い、暮らしの利便性が高い
ウェルネスライフを後押しするまち

DATA

人口 270,589人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 138.48km²
世帯数 111,601世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 1,927.2人/km²(国勢調査 2010年)

交通の便に優れ、 都市開発も進み、暮らしも便利

県中南部に位置し、加古川バイパス、国道2号線を中心に、山陽自動車道、東播磨道、国道250号線などの道路交通網が発達。また、JR山陽本線の新快速列車が停車する加古川駅からは、丹波市とをつなぐJR加古川線の列車も発着。市南部には山陽電車が走り、各所へのアクセスに優れたまちです。特に姫路市へはJR山陽本線新快速列車で約10分、神戸市へは約25分と移動のしやすさから、ベッドタウンとしての一面も持っています。JR加古川駅前のほか、市内各所に多数の商業施設が立地し、日々の生活も便利。桜の名所、日岡山公園など自然に触れられるスポットも多く、靴下や建具といった地場産業も盛んなまちです。



暮らし応援 いいね！ポイント

1 さまざまなイベントや施設で 市民のウェルネスライフを後押し

「ウェルネス都市」として市民の健康的な暮らしと社会づくりをめざす加古川市では、健康に関わるイベントや施設が充実。加古川河川敷には常設の公認フルマラソンコースがあり、毎年12月には「加古川マラソン大会」を開催。市内各所の自然や歴史に触れるウォーキングイベント「加古川ツーデーマーチ」は、地域振興の役割も担っています。また、プールやジムに加え、図書館や音楽ホールを備えたウェルネスパークなどの施設もあります。



check! 県下最大級の新病院が開院！ 全国有数の最新鋭医療機器を導入！

2016年7月、JR加古川駅近くに、新たに「(仮称)加古川中央市民病院」が開院。ベッド数は600床、30の診療科を備えた兵庫県下最大級の病院です。最新鋭の医療機器を整備し、充実した医療提供体制が整っています。救急医療をはじめ入院や手術による治療を行う高度急性期及び急性期の病院として、赤ちゃんからご高齢の方まで、地域住民の皆さんに最適な医療を提供します。



check! 子育て世帯の心強い味方 子育てプラザを設置

子育て中の親子が気軽に利用・交流できる場として、市内2カ所に子育てプラザを設置。情報の発信や育児相談、子育てサークルの育成・指導などを行っています。さらに子育ての総合ワンストップ窓口として、市役所内に「子育て世代包括支援センター」を2016年4月から開設。相談や情報提供を行い、様々な角度から子育てを支えます。



移住者voice

子育てプラザでの出会いが 活動と子育ての幅を広げてくれました

自身が子育てするようになって、市の子育てプラザのことを知り、参加していく中でたくさんのママ友と仲良くなることができました。皆さんとの交流で感じたのは、加古川周辺のお母さん方とはとても元気で活動的なこと。これから加古川に来られる方も、子育ての不安や悩みがあれば子育てプラザにぜひ来てください。私自身、プラザでの交流が刺激となって、ベビードダンスのインストラクター資格を取得し、子育てサークルを立ち上げました。参加者の中には育児への不安や悩みがある方もおられるので、サークルやメンバーの存在が支えになればと思っています。

北原 真紀さん(2008年より移住)



暮らし応援 いいね！ポイント

2 起業家への支援体制を整備

市内での起業を支援するワンストップ窓口「かこがわ創業応援団」を開設。事業計画の作成や資金調達まで、起業に関する相談窓口です。各種セミナーや創業資金の融資も行っており、起業をめざす方々をバックアップしています。

加古川市
わがまち
自慢

2016年に新病院が開院。豊かで健康的な
暮らしをめざす「ウェルネス都市」

■問い合わせ先

加古川市 政策企画課 TEL:079-427-9113
<http://www.city.kakogawa.lg.jp/>

加西市

都会と田舎がほどよく溶け込んだ
暮らしにちょうどいいまち

げんきいっぱい
のびのびできるね！



市街地の利便性が高く、 ゆったりとした雰囲気も魅力

県南部、播州平野のほぼ中央に位置しています。中国自動車道、山陽自動車道を利用した各方面へのアクセスに優れ、特に大阪、京都、三ノ宮へは直通の高速バス路線があります。市の中心部、北条駅周辺は市街地としての開発が進み、買い物にも便利。一方で国宝・一乗寺、五百羅漢などの歴史的名所や、県立フラワーセンター、古法華自然公園といった自然に触れられるスポットも充実。農作物の栽培も盛んで、特にぶどうは市を代表する特産品です。



暮らし応援 いいね！ポイント

1 移住定住者や新規就農者を支援

就職相談員が常駐する「ふるさとハローワーク」を設置。U/Iターン専用相談窓口が開設されており、移住定住者の市内への就職をサポートしています。また、45歳未満で新たに農業を営む若者を対象に、3年間で最大約900万円の支援と研修制度を設けています。



暮らし応援 いいね！ポイント

2 子育て促進への環境づくりが進む

4・5才児の保育料が無料です。また妊娠5ヶ月以降の父母を対象にプレママ教室「パパママクラブ」を開設し、出産・子育てに関わる情報を提供。学童保育の開園時間も18:30まで延長しています。

移住者voice

地域の方々と協力して 新たな雇用を生み出したい！

暮らしやすいまちづくりに向けてさまざまな活動に取り組む「地域おこし協力隊」に着任し、移住者とまちとの関わりをコーディネートする活動や、移住・起業をめざす方の支援施設の立ち上げなどに取り組んでいます。まちには強い地元愛を持っている方がたくさんおられます。そんな方々とともに、地域の課題や資源を活かした新たな雇用を創出していくことが目標です。

下江 一将さん(2015年より移住)



check! 若者世帯による活性化を図る 「若者主設計画」が進行中！

「であう、くらす、はたらく、まなぶ」をテーマに、10代から30代の若者を対象とする起業・定住などの支援施策「加西市若者主設計画」を策定。若者の夢の実現や地域活性化をめざします。

若者主設計画の主な支援制度

若者チャレンジ助成

若者の地域おこしプロジェクトにおける経費の一部を助成します。

若者キックオフサポート

若者や女性を対象に、起業準備で必要となる費用の一部を助成します。

SOHO・
シェアードオフィス
若者の起業者を対象に一定期間事務所を貸与し、起業を支援します。

クリエイター支援
全国の若いクリエイターを対象に、市の資源を活用した作品制作やイベント企画を募集し地域プロモーションを推進。またクリエイター人材をバンク化して発信します。

暮らし応援 いいね！ポイント

3 空き家改修補助制度でリフォーム費用を支援

市内にある築年数が25年以上の空き家へ定住される方を対象に、空き家のリフォーム費用の一部補助する制度を設けています。補助額は工事費の1/2以内で、上限は50万円です。

暮らし応援 いいね！ポイント

4 若者への定住促進制度が充実

新築または住宅(土地付、築後10年以内)を購入した若者世帯に取得費用の一部を、市の賃貸住宅に入居する新婚世帯に家賃の一部を3年間補助。また奨学金の貸与を受けた大学、短期大学等の進学者を対象に、前年度奨学金返済額の1/3を補助します。

加西市
わがまち
自慢

兵庫を代表するぶどう「ゴールデンベリー-A」がおすすめ！
都会と田舎がほどよく調和したまち

■問い合わせ先

加西市 ふるさと創造部 人口増政策課 TEL:0790-42-8700
<http://www.city.kasai.hyogo.jp/kasaistyle/index.htm>

高砂市

謡曲「高砂」にうたわれる
結びのまち

自然にも仕事にも
恵まれたまち！

DATA

人口 93,769人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 34.38km²
世帯数 38,919世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 2,729.7人/km²(国勢調査 2010年)

多彩な産業と風光明媚な景色が広がる、 交通の便に優れた住みよいまち

播磨平野の東側に位置し、古くから白砂青松の
泊として栄えてきました。播磨臨海工業地帯の
中核として機械、製紙、化学などの工業が発達す
るとともに、松右衛門帆や竜山石といった地場
産業も振興。石の宝殿、高砂神社などの史跡も
多く、神戸や大阪へのアクセスに優れた住みや
すいまちです。



暮らし応援 いいね！ポイント

① 子どもたちの健やかな成長のための 支援体制が充実

市内2カ所に設置されている子育て支援センターでは、子育ての不安や
悩みを相談できる心強い施設。さまざまな子育て世帯が交流できるサー
クル活動や、親子で一緒に遊びを楽しむつどいの広場なども実施してい
ます。また、NPO法人高砂キッズ・スペースが運営する学童保育所を全
校区に設置しており、安心して子育てできる環境を整えています。

暮らし応援 いいね！ポイント

② 夜間・急病時の医療体制や、 電話相談の窓口を確保

内科・小児科に関する夜間の急病受付窓口を開設。内科は午後9時から
午前6時まで、小児科は午後9時から午前0時まで対応しています。
また小児を対象とする夜間の救急医療電話相談を開設しています。

移住者voice

希望のこども園や保育園へ入園でき、 子育て支援センターのサポートも充実！

転勤をきっかけに高砂へ移住しました。待
機児童がゼロなので、希望するこども
園・保育園に入園できたこと
や、市の子育て支援センター
を通して他の子育てで家族の
方々と交流できたことがとても
よかったです。高砂は交通の便も良
いので、週末は家族で気軽に神戸や
城崎などあちこちへ出かけています。

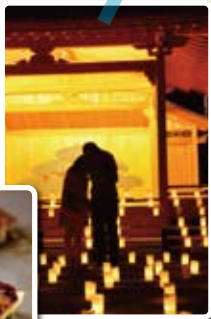
新原 明日香さん(2009年より移住)



暮らし応援 いいね！ポイント

③ 豊富な灯りのイベントや 個性あふれる地元グルメが 暮らしを豊かに彩る！

歴史的建造物がライトアップされ、キャンドル
が町中を灯す「たかさご万灯祭」や、市庁舎が
電飾で彩られる「たかさごルミナイト」などが
開催されます。また播磨灘で取れる穴子を使
った焼き穴子や、にくてんといった地元グル
メも楽しめます。



高砂風
お好み焼き、
にくてん！



暮らし応援 いいね！ポイント

④ 新婚・子育て世帯に対する住居支援を整備

新婚・子育て世帯が高砂市内に住宅を新築する場合に、固定資産税が
1年間実質ゼロになる制度や、新婚世帯の家賃や引越費用を補助す
る制度など、住まいに対する支援を行います。

check!

市内の求人情報を提供するWebサイト 「おしごとステーションたかさご」

市が提供する求人や、ハローワーク
加古川に寄せられている求人を調べ
ることができ、幅広く情報を得るこ
とが可能です。また各種セミナーや、仕
事と子育ての両立をめざす方に向け
た情報の提供など、就労支援も充実
しています。



高砂市
わがまち
自慢

市ができてから、ずっと、
待機児童ゼロを維持しています！

■問い合わせ先

高砂市 経営企画室 TEL:079-443-9007
<http://www.city.takasago.hyogo.jp/>

神河町

美しい自然と歴史に抱かれた
兵庫のまんなかでキラリと光るまち

DATA

人口 12,083人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 202.23km²
世帯数 4,128世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 60.8人/km²(国勢調査 2010年)

姫路、京阪神へのアクセスに優れた 自然、歴史、文化があふれるまち

県のほぼ中央に位置するまちで、南北にJR播但線と国道312号線、
播但自動車道が走るとともに、近隣に中国自動車道があり、姫路、京
阪神への良好なアクセス環境が整っています。関西有数の高原地帯
である砥峰・峰山高原をはじめ、越知川名水街道、氷瀑として知られ
る扁妙の滝などの豊かな自然に触れることができ、ホテルや梅花藻
も季節の風物詩となっています。また近代化産業遺産「銀の馬車
道」、中村・栗賀地区の景観などの歴史的な見どころや、動物たちと
の触れ合いが楽しめるヨーデルの森、キャンプ場などを備えたグ
リーンエコー笠形といった自然体験施設も充実しています。



越知川名水街道



新野の水車

暮らし応援 いいね！ポイント

① 起業家を支援する各種制度が充実

神河町創業支援事業計画を策定。創業支援セミナーを開催し、セミ
ナー受講修了者には審査の上、補助金交付や登録免許税減額など
のメリットが受けられる認定書を交付しています。また創業者ワン
ストップ窓口の設置やフォローアップ相談会の開催など、商工会、
町内の金融機関、ひょうご産業活性化センター、地域の関係団体が
連携する支援体制を確立しています。

移住者voice

地域おこし協力隊の活動を活かし ゲストハウスを開きたい



地方でゲストハウスを開きたいと思ってい
たところ、地域おこし協力隊を募集していた
神河町を知り、この経験が活かせるのでは
と考え参加しました。ゲストハウスの経営で
生計を立てるために+αの何かを見つける
必要があることを学び、その可能性を模索
しています。

小寺 亜也香さん(2015年より神河町に移住)

暮らし応援 いいね！ポイント

② 住宅取得や引っ越しなど 住まいに関わる手厚いサポート

若者世帯を中心に、定住をサポートするための住宅取得や引っ越し費用
助成が充実しています。また定住される方を対象に、2020年3月末まで
ケーブルテレビ加入金・上下水道加入金を免除。神河町Webサイト内
「神河に住もう！」ページから、住まいの支援制度情報を確認することも
できます。

若者世帯向け 家賃補助

町内の賃貸住宅家賃を
最大20,000円補助

若者世帯住宅 取得支援

住宅購入費用を
最大150万円補助

UJIターン 促進支援

町内への引越費用を
最大50,000円補助

暮らし応援 いいね！ポイント

③ 待機児童ゼロを実現 子育て世帯への幅広い支援

保育所、幼稚園の保育料軽減制度(第2子以
降)や子育て支援金給付(第3子以降)を実
施。また放課後子ども教室の開催や町内2カ
所への児童館設置、19時までの延長保育実
施など、共働き世帯のサポートも充実。待機
児童ゼロを実現しています。



神崎小学校

check! 町や周辺地域の医療を支える 公立神崎総合病院

地域医療の柱となる公立神崎総合病院
があり、小児科、産婦人科を含む充実の
診療体制を整備。また中学校3年生まで
の医療費を所得制限無しで無料化し、
町民の健康的な暮らしを支えます。



公立神崎総合病院

神河町
わがまち
自慢

大阪、神戸の日帰り圏内でありながら
自然豊かな人情味あふれるまち

■問い合わせ先

神河町 地域振興課 TEL:0790-34-0185
http://www.town.kamikawa.hyogo.jp/forms/info/info.aspx?info_id=6222

市川町

兵庫県の中央部に位置する
霊峰笠形山の裾野に開かれたまち

DATA

人口 13,050人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 82.67km²
世帯数 4,881世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 160.7人/km²(国勢調査 2010年)

中核都市・姫路へのアクセスに優れ、ベッドタウンとしての役割を担う

JR播但線や、中国自動車道と直結した播但自動車道などの交通路に恵まれ、姫路への通勤圏内でありながら比較的地価が安いことから、ベッドタウンとしての利便性を備えています。四季折々の自然に彩られ、町の北東に位置する笠形山には笠形神社、笠形寺があり、歴史探索や登山・ハイキングを楽しむことができます。



暮らし応援 いいね!ポイント

1 保育料軽減など子育て支援の助成が充実

子育てにかかる経済的な負担を軽減するため、第二子の保育料を半額、第三子以降を無料とする助成制度を実施しています。さらに、妊婦の健康診査費の助成(上限10万円)や不妊治療の一部に助成を行っています。また、延長保育や放課後の子どもたちの遊び場づくりなど、まち全体で子育てを支える環境づくりに力を入れています。



子育て情報満載のパンフレットも配布!



暮らし応援 いいね!ポイント

2 救急医療体制や医療費助成制度を設置

休日や夜間の救急医療体制を確保。また19歳から49歳までを対象に、麻しん・風しんの予防接種が割安となる助成制度があります。

check! 移住・定住をサポートする上牛尾豊かな居住支援協議会

農業や田舎暮らしに興味があり、市川町への移住を考えている方へさまざまな支援を行っている「上牛尾豊かな居住支援協議会」があります。農業、暮らしに関わる情報や空き家情報などを提供しており、わからないことはなんでも相談できる、心強い味方です。

移住者voice

地域の人々が温かく、農業にも子育てにもいい環境です。

農業に従事する人が少なくなっていることから、有機農業に携わりたいと思い移住を決意しました。市川町のいいところは、地域の方がとても親切なこと。地元の方に家や田畑を紹介していただけたことが今の暮らしにつながっており、大変感謝しています。

松崎 寛之さん(2010年より移住)



暮らし応援 いいね!ポイント

3 アウトドアや温泉など、自然を満喫できるスポット満載!

リフレッシュパーク市川には、珍しい種類のかぶとむしが集まるかぶとむしどーむやアスレチック施設などがあり、親子で楽しめます。また、静かな山あい湧き出る天然温泉でゆったりと疲れを癒やすことができるかさがた温泉など、自然の中で休日を楽しめるスポットがいっぱいです。



暮らし応援 いいね!ポイント

4 空き家バンク制度で町内の空き家探しがスムーズに

町内の空き家や土地について売りたい人と買いたい人をつなぐ空き家バンク制度を実施。空き家情報と価格を調べることができます。

市川町
わがまち
自慢

国産ゴルフアイアン発祥の地。
今も職人によるアイアンの製造が盛んです。

■問い合わせ先

市川町 総務課 TEL:0790-26-1010
<http://www.town.ichikawa.hyogo.jp/>

福崎町

歴史が彩る町並みと自然に恵まれた、
交通の要衝として発展を続けるまち

河童伝説が
受け継がれて
います



DATA

人口 19,591人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 45.79km²
世帯数 7,351世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 432.8人/km²(国勢調査 2010年)

歴史も自然もお出かけも魅力的な暮らしの要素が集約

兵庫県の南西部に位置し、町の中央に清流市川が流れる中核田園都市です。中国自動車道、播但連絡道路が交差しており、姫路方面や近畿・中国方面へのアクセスが良好。またJR播但線が南北に走り、姫路駅をはじめとする各方面への移動にも優れています。見どころも多く、特に辻川地区は、朝来市の生野銀山と姫路港の飾磨津を結ぶ馬車専用道路として明治時代に完成した「銀の馬車道」によって発展。当時に建てられた洋風の建築様式を取り入れた旧郡役所などが現在も残るとともに、日本民俗学の父といわれる柳田國男の生家があり、風情ある景色を楽しむことができます。また落差72mの雄滝をはじめ雌滝など48の滝による「七種の滝」や、登山やアウトドアが楽しめる春日山、六甲山系を一望できる日光寺山など、自然を体感できるスポットも豊富。特産品の「もちむぎ」は栄養価に優れ、もちむぎ麺やカステラといったさまざまな加工品が作られています。

暮らし応援 いいね!ポイント

1 子育て支援センターが拠点となり子どもたちの成長を手厚くサポート

子どもたちの健やかな成長をサポートするための拠点として、子育て支援センター「おひさまらんど」を設置。子育てに関する悩みや疑問への相談対応に加え、子育てについての講演会開催、グループ活動の促進、担当者が地域の公民館などで遊びや親子のふれあい活動を行う「すきっぷひろば」などの各種支援を実施。また町東部地域には東部子育て学習センター「にこにこひろば」、町西部には西部子育て学習センター「ともだちひろば」があり、相互に連携しながらあらゆる面から子育て世帯を応援するさまざまな制度が整っています。

移住者voice

子どもたちに向けられる地域の温かさを感じています

義母との同居、そして出産・子育てにいい環境を考え、実家のあった伊丹市から移住しました。今住んでいる集落は、移住者も温かく迎えてくれ、何より大人達全員が子どもたちに目をかけてくれているので、とても安心しています。また中学校まで医療費が無料というのも心強く感じました。秋祭りのにぎわいが素晴らしい、福崎町に住んでよかったと思います。

原井川 琢彦さん(2010年より移住)



暮らし応援 いいね!ポイント

2 休日・夜間でも安心の医療体制

神崎郡在宅当番医診療制度では、郡内の医療機関が交代で休日の急病へ対応。日曜、祝日、年末年始の午前9時から午後5時まで診療を行っています。また公立神崎総合病院では、休日・夜間の診療に対応。土曜・日曜、祝日、年末年始は内科と外科系が午前8時30分～午後5時まで、夜間は内科か外科系のいずれかが午後5時～翌朝午前8時30分まで診療を受け付けています。

暮らし応援 いいね!ポイント

3 自然を体験できる施設が充実

山小屋やテントサイト、キャンプファイヤー場が設けられ、気軽にキャンプやアウトドアを楽しむことができる青少年野外活動センターや、バンガローなどのキャンプ設備の他にテニスコートも設けられている八千種自然活用村があり、自然に親しみ、自然の中で遊べる施設が充実しています。



check! 町内で就農を考える若者世代への支援給付金制度を設置

これから就農を考える45歳未満の方々に向けて、年間150万円(夫婦の場合は225万円)の青年就農給付金を最長5年間給付。町内で農業を始めたという意欲を支援し、就農後も継続して農業に携わることができるようにしています。

青年就農給付金
年間150万円

福崎町
わがまち
自慢

注目の食品!特産「もちむぎ」を使った
多くの商品があります!

■問い合わせ先

福崎町 地域振興課 TEL:0790-22-0560
<http://www.town.fukusaki.hyogo.jp/>



姫路市

播磨圏域の中枢を担う
人口約50万人の暮らしやすいまち

DATA

人口 543,083人 (住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 534.33km²
世帯数 229,878世帯 (住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 1,003.4人/km² (国勢調査 2010年)

交通の利便性が高く、都市機能が充実した播磨の中核都市

世界文化遺産・国宝姫路城を有する播磨圏域の中核都市です。圏域の交通の要所として、姫路駅を中心とする鉄道網や中国自動車道、姫路バイパス等の道路網が広がっています。

特に、JR姫路駅は新幹線「のぞみ」、「みずほ」の停車駅で東京や博多方面へのアクセスも快適です。大型商業施設や文化・教育施設が充実しているのに加え、家島諸島、田園、中山間地域といった自然環境に恵まれた地域を有しているのも特徴で、暮らしやすい街として注目を集めています。



姫路駅前

暮らし応援 いいね！ポイント

1 地域の子育てを支援

姫路市すこやかセンターでは、子育てに関する相談や情報の提供を行うほか、ファミリーサポートセンター、子育て学習センター等の実施、子育てサークル活動の場として利用されています。センター発行

子育て情報満載で
わかりやすい！



の子育てガイドブックには、各種手当や助成、遊び場など、子育てに役立つ情報を掲載。さらに行政のサービスや各種施設紹介、予防接種の情報、医療機関の相談窓口、イベント情報など、子育て情報が網羅された総合情報サイト「わくわくチャイルド」が公開されています。

移住者voice

皮革産業の本場に身を置き起業をめざしています！

皮革に関わる仕事をしており、皮革の産地である姫路に魅力を感じ、愛媛より移住しました。市が支援している革工房では、縫製技術やマーケティングなどの研修を受けることができるので、これらのおかげで起業の予定もたち、大変役立っています。

渡辺 賢智さん(2009年より移住)



暮らし応援 いいね！ポイント

2 休日・夜間急病センターによる医療支援

姫路市休日・夜間急病センターが開設されており、内科・小児科は毎日午後9時から翌午前6時まで対応。また休日昼間は内科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科を対象に午前9時から午後6時まで対応しています。重症の場合は二次救急医療機関への搬送も行われるなど、安心の医療体制が整っています。



暮らし応援 いいね！ポイント

3 暮らしやすさを示す各種データ

経済産業省による「暮らしやすさ指標の貨幣価値(30代、利便性志向、夫婦と子供世帯の場合)」において県2位、近畿地方でも10位にランクイン。また、合計特殊出生率(平成25年・厚生労働省)も1.55と、人口50万人以上の都市の中で全国第2位となっています。

check! 各エリアに集まる充実の文化施設

美術館や博物館、また動物園から水族館まで、市内の各エリアには多様な文化施設などがあり、平日・休日を問わず、家族揃って「学ぶ! 遊ぶ! 楽しむ!」ことができる施設が充実!

姫路城周辺エリア

- ・姫路文学館
- ・姫路市立美術館
- ・兵庫県立歴史博物館
- ・姫路市立動物園

桜山周辺エリア

- ・姫路科学館「アトム館」
- ・兵庫県立こどもの館
- ・宿泊型児童館「星の子館」
- ・姫路市自然観察の森

手柄山周辺エリア

- ・手柄山温室植物園
- ・姫路市立水族館

その他

- ・日本玩具博物館
- ・姫路セントラルパーク
- ・城内図書館(他14分館)

姫路市 わがまち 自慢

世界文化遺産・国宝 姫路城のもと、
文化施設や商業施設が充実しています。

■問い合わせ先

姫路市 地方創生推進室 TEL:079-221-2384
<http://www.city.himeji.lg.jp/>



穴栗市

自然が育む豊かな緑と
数多くの景勝地に恵まれたまち

DATA

人口 40,744人 (住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 658.54km²
世帯数 14,561世帯 (住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 62.2人/km² (国勢調査 2010年)

充実のアウトドアライフと 穏やかな暮らしが魅力

県中西部に位置し、市の北部は1,000mを越える山々や渓谷などが、南部は商業施設や医療機関が集中しています。京阪神と中国地方を結ぶ中国自動車道、山陽地方と山陰地方を結ぶ国道29号が交差し、道路網が発達しています。豊かな自然がまちの魅力で、清流が育む特産のアユ、自然薯などの農産物、カヌー、スキー、登山、キャンプ、また温泉、紅葉などを満喫できます。

暮らし応援 いいね！ポイント

1 移住・定住後の就農・起業を支援

新規就農・定住される方を対象に、農業用機械の購入や農業用施設の設置、種や苗などの購入費といった営農継続に必要な経費として最大100万円を助成。また市内在住で新たに起業される方を対象に、起業に要する一部費用を助成する制度を設けています。
※各助成の対象者にはさまざまな条件があります。詳しくは穴栗市までお問い合わせください。

暮らし応援 いいね！ポイント

2 安心の子育て支援

中学生以下の医療費を無料化。保育料は国基準額に上乗せして軽減を図っています。市内4カ所に子育て支援センターを設置するなど、地域ぐるみで安心の子育て支援を行っています。



移住者voice

絶対に揺らぐことのない信念を持ち、 前に進むことが大切です。

夫婦とも都会で育ったので、子育ては違う環境でと考えていました。作った野菜を通して直接お客様との関係を築きたいという思いで、現在カフェの経営と共に農業に携わっています。移住する時は、数多くの情報から何を選択するべきか、迷いや悩みが必ずあります。そんな時こそ絶対に揺らぐことのない信念を持って進むべき道を見出し、その方向を見失わず前に進むことで道が開けると信じています。



竹内 真史さん(2010年より移住)

check! 兵庫県初の 森林セラピー基地に認定!

森の持つリラックス効果が森林医学の面から実証され、関連施設などの自然・社会条件が一定の水準で整備された地域に認定される「森林セラピー基地」に、兵庫県で初めて認定を受けました。森の中で寝転がったり、木に触れてみたり、五感を使って森と対話したりと、豊かな緑を身近に感じながら過ごすことができます。



暮らし応援 いいね！ポイント

3 地域住民たちが主体となった 活気あふれるまちづくりが進行中!

地域資源を生かした住民主体のまちづくりが行われています。市北部の千町集落では「あこがれ千町の会」を発足し、都市住民と一緒に有機栽培、無農薬で農産物作りを開始。また市中心部の鷹巣地域も「鷹巣ブランド米づくり」「小学校校舎跡地の運用」「地域住民が集まる食堂の設置」のプロジェクトに取り組んでいます。さらに地域の魅力を発信、強化するために、地域おこし協力隊によるさまざまな活動が展開されています。

暮らし応援 いいね！ポイント

4 通勤、通学費助成も含めた 定住支援を実施

移住・定住における住まいの支援に向け、空き家バンク制度を実施。空き家バンクに登録されている住宅を所有・利用・購入する方を対象に、物件の改修費用を助成しています。また住宅を新築した方や、空き家バンクを活用して市外から転居してきた方へは、引っ越し費用として5万円を支給。さらに公共交通を利用して中・西播磨以外に通勤、通学する方へ、通勤・通学費の助成も行っています。支援制度や子育てに関する情報は、Webサイト「穴栗市定住のすすめ」から調べることができます。



サイトを
チェック!

穴栗市 わがまち 自慢

豊かな森林と揖保川の
清流を有する癒しのまち

■問い合わせ先

穴栗市 市民協働課 TEL:0790-63-3123
<http://www.city.shiso.lg.jp/tejju.html>



太子町

若い力にあふれた
聖徳太子ゆかりのまち

若い人が集まる
元気なまちです！

DATA

人口 34,535人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 22.61km²
世帯数 13,050世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 1,478.2人/km²(国勢調査 2010年)

出生率県内3位 コンパクトで暮らしやすいまち

県南西部の播州平野が広がる西播磨地域の一角に位置します。東西約6km、南北約4kmの地域に鉄道や国道などの主要交通網がめぐり、飲食店などを含むお店が充実する便利なまちです。聖徳太子にゆかりのある斑鳩寺や、宮本武蔵生誕の碑といった史跡とともに、D51が保存されている桜の名所・太子山公園があるなど、落ち着いた住環境も魅力。全国的な少子高齢化の中でも同町の人口は増加傾向で、特に出生率は2010年国勢調査によると県内第3位、15歳未満の年少人口も県内12町の中で最も高くなっています。



暮らし応援 いいね！ポイント

1 子どもから高齢者まで医療制度を手厚く

0歳児から中学3年生までを対象に医療費を助成。特に中学3年生までの入院費用、6歳の就学前までの子どもの通院にかかる費用が無料になります。また、休日や夜間の急患に対応する揖龍休日夜間急病センターを運営しています。このほか、高齢者や障害のある方を対象に、通院などの外出負担を軽減するやすらぎタクシー運賃助成制度を実施。健康的な暮らしをサポートしています。

check!

乳幼児のための 「赤ちゃんのえき」設置など 子育てしやすい環境を整備

小さな子どものいる家庭が外出しやすいよう、町内21カ所の公共施設に授乳やおむつ交換ができるスペースを設けています。また、子育て中の共働き世帯を応援するため、町内全ての幼稚園、小・中学校で完全給食を実施。毎日の給食の献立は写真付きでホームページやフェイスブックに掲載しており、家庭でもその内容を知ることができます。



暮らし応援 いいね！ポイント

2 豊かな自然とアクセスの良さが両立

姫路市に隣接している本町は、住民の最寄り駅の一つ「網干」駅発の電車があり、神戸・大阪までの移動に優れている点が大きな魅力です。山陽自動車道や姫路バイパスのインターチェンジへのアクセスも良く、交通網が充実しています。また、田畑や緑があふれ、特産品の手延べそうめんやタケノコ、イチジク、みそなどの豊かな食を味わう楽しみもあります。



太子町
わがまち
自慢

コンパクトで利便性に優れた
「若さと元気があふれる住みやすいまち」

■問い合わせ先

太子町 総務部 企画政策課 TEL:079-277-5998
<http://www.town.hyogo-taishi.lg.jp/>

移住者voice

消防団と自治会の壮年会に入ったことで、 暮らしが一層楽しくなりました。

以前町を訪れた時に会った住民の皆さんが優しくて、ここに住みたいと思いました。交通の便が良く、いろいろなお店や公園がある生活のしやすいまちだと思います。知り合いがらず不安でしたが、消防団と自治会の壮年会に入ったことで地域の方々との交流が生まれ、暮らしがさらに充実。移住を考えておられる方には、地域のさまざまな活動や取り組みに積極的に参加されることをおすすめします。



新田 賢志さん(2012年より移住)



たつの市

エリアごとに多彩な暮らしのシーンがある
播磨の小京都

DATA

人口 79,344人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 210.87km²
世帯数 29,919世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 381.7人/km²(国勢調査 2010年)

働く、住む、休日を過ごす 暮らし方が広がる4つのエリア

活気ある地場産業、豊かな自然や歴史遺産に恵まれた、兵庫県の南西部に位置する地域です。道路や鉄道にアクセスしやすい立地条件から、近年は住宅地の開発や企業立地が進んでいます。龍野城とその城下町が栄えた「播磨の小京都」と呼ばれる龍野エリア、播磨科学公園都市の構成地域として研究機関などが集積する新宮エリア、地場企業や近郊農業が盛んで住宅地として人気の揖保川エリア、海水浴場や公園、歴史的な建築物などがある御津エリアからなり、就労・住・自然環境がバランスよく調和。歴史や行楽スポットにも恵まれ、多彩な暮らしのイメージが広がります。



暮らし応援 いいね！ポイント

1 「たつので働く」を積極的に応援

市や周辺地域の企業が参加する合同説明会「就職・定住応援フェア」を実施。キャリアカウンセラーによる就職相談や定住支援に関する情報提供コーナーを併設し、移住・定住者の就職をサポートしています。また若者を対象とする「就職サポート相談会」や、女性を対象とする「再就職支援セミナー」も実施。市内で開業し、2年以上継続して事業を行う方へは、店舗建築・改修費や設備、賃貸料の補助などを行う創業支援を実施しています。さらに就農する方への支援として、集落営農推進事業、地域農業担い手支援事業が設けられており、対象者に補助金が交付されます。

check!

子どもを地域で育てる制度が充実

子どもの発達段階に合わせた支援制度が充実しています。また保育園や幼稚園、認定こども園を拡充するなど、子育てしやすいまちづくりに取り組んでいます。

発達段階に合わせた子育て支援制度

- 小学校まで
・妊婦の健康診査・歯科検診費用助成
・出生祝い金の贈呈
・乳幼児等医療費助成(医療費無料)
・子育て支援施設「つどいの広場」設置
・病後児保育の実施
・チャイルドシート購入助成
- 中学校まで
・こども医療費助成(医療費無料)
・小中学校の外国語指導教員配置
・外部講師による理科実験・実習
・子育て支援施設「放課後児童クラブ」設置

暮らし応援 いいね！ポイント

2 豊富な行事、見どころと便利な交通網

武者行列が行われる龍野さくら祭りや新舞子浜での潮干狩り、花火大会、みつ梅まつりなど、四季や地域の歴史、自然などを楽しめる催しが開かれます。また、鉄道ではJR姫新線、山陽本線、道路では山陽自動車や国道2号線が市内を通り、姫路、神戸、大阪など主要都市へのアクセスが便利。ビジネスや通学、出かけもしやすい立地です。



暮らし応援 いいね！ポイント

3 定住者対象の住宅助成を行い、経済的負担を軽減

定住を目的として市内に住居を移す方への助成として3年間で50万円を交付する転入者住宅取得奨励金や、市内在住の40歳以下の住宅取得者を対象に30万円を交付する若者定住促進住宅取得奨励金を設置。また再生可能エネルギー等利用システムの設置補助制度もあり、住居に関わる費用の助成を行っています。

移住者voice

移住者の住まいのための 支援制度が役立ちました

地ビールの醸造を目的に埼玉から移住しました。移住先が景観形成地区のため、外観保存のリフォーム費用一部補助を受けることができました。また転入者定住促進住宅取得奨励金も移住費用の助けとなりました。たつの市は気候が穏やかで過ごしやすいまち。川や山並みの景色もとても気に入っています。

蔵本 史子さん(2015年より移住)



たつの市
わがまち
自慢

文化と自然に恵まれ、交通アクセスも良好。
支援も豊富で子育てしやすい！

■問い合わせ先

たつの市 都市建設部 まち未来創造課 TEL:0791-64-3167
<http://www.city.tatsuno.lg.jp/kouhohisho/teijyusokushin.html>

相生市

11の施策が整った
「子育て応援都市」のまち

みんなで
遊べるところが
いっぱい！

DATA

人口 30,660人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 90.40km²
世帯数 13,321世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 344.5人/km²(国勢調査 2010年)

日本一子育てしやすいまちへ 住居、保育、医療支援を手厚く

県南西部に位置する、海岸部から平地、山間部までを含む自然豊かな地域です。瀬戸内海の穏やかな気候風土に恵まれ、競漕で有名な市の伝統行事「ペーロン」は、各地から訪れる多くの人でにぎわいます。近年は西播磨テクノポリスの重要拠点の一つとして産業の基盤づくりが進むとともに子育て支援に力を入れており、2011年に「子育て応援都市」を宣言。子育て世代へのさまざまな支援策を拡充させています。



万葉の岬

暮らし応援 いいね！ポイント

1 新幹線の停車駅があり交通の便が良好

JR山陽本線やJR赤穂線、新幹線の停車駅を持ち、近隣都市へアクセスしやすいのが特色。駅を中心に公共施設や病院、学校などがコンパクトにまとまった暮らしやすいまちです。



- ・姫路まで在来線で約20分 ・神戸まで在来線で約60分
- ・新大阪まで新幹線で約50分

移住者voice

子育て学習センターの存在が大きい！ 相生に住んでよかったと思います

結婚を機に移住することとなり、徒歩圏内に新幹線の停車駅があったことで相生に住むことを決めました。ゆかりのない土地で子育てのことも不安でしたが、子育て学習センターに通い始めてからは、先生方の手厚い支援やすぐに溶け込める雰囲気助けられ、心強かったです。子育てをする家庭にとっても優しいまちだと思います。



衣笠 美佐さん(2009年より移住)

check! 子育て世代をバックアップする 11の施策を実施

相生市では、11の施策を柱とする子育て支援を進めています。様々な支援制度だけではなく、子育ての悩み相談や情報発信のための「子育て学習センター」や「まちの子育て広場」など、交流の場も充実しています。幅広い年齢の子どもを持つ家庭を応援し、若い世代が希望を持って暮らせる環境の整備に努めています。



あいおいが暮らしやすい11の鍵

- 新婚世帯家賃補助金交付
新婚世帯に月額10,000円の家賃補助を実施
- 定住者住宅取得奨励金交付
市内に住宅を新築・購入された方に奨励金を交付
- マタニティタクシークーポンの提供
妊婦さんにタクシー助成券10,000円をご提供
- 出産祝い金の贈呈
ご出産のお祝い金として50,000円を贈呈
- 乳幼児子ども医療費助成
中学3年生までの医療費を無料化
- 子育て応援券の交付
予防接種などに利用できる応援券20,000円を交付
- 保育料の軽減
市立幼稚園の保育料を無料化
- 市立幼稚園預かり保育の実施
4・5歳児対象の預かり保育を月額5,000円で実施
- 市立幼稚園の給食実施
火・水・木の週3日は市立幼稚園の給食を実施
- 幼・小・中学校の給食費無料化
- 相生っ子学び塾
小学5・6年生が対象の放課後学習塾を無料で実施(国語・算数・英語)



相生市 わがまち 自慢

子育て支援日本一をめざす、
しあわせ溢れるまち

■問い合わせ先

相生市 企画総務部 定住促進室 TEL:0791-23-7125
<http://www.eetoko-aioi.jp/>

佐用町

未来の科学技術の発展を支える
豊かな自然に抱かれたまち

DATA

人口 18,514人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 307.44km²
世帯数 7,031世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 62.6人/km²(国勢調査 2010年)

美しい田園風景と 歴史の薫り漂うまち

県西部の西播磨地域に位置するまち。南部にはたつの市、上郡町の3市町にまたがる播磨科学公園都市があり、学校や研究機関などの集積が進んでいます。豊かな自然環境が残されており、水辺ではホタルやメダカの姿を目にすることができるほか、日本の棚田100選に選定されている乙大木谷の棚田や南光地域のひまわり畑などの美しい田園風景が広がります。また、古くから宿場町として栄えてきた平福では、商家の町並みが当時の面影を今に伝えます。



暮らし応援 いいね！ポイント

1 地産地消にも取り組む多彩な子育て支援

出産祝い金として50,000円の贈呈をはじめ、15歳までの医療費の無料化、子ども向けの任意予防接種への助成、幼稚園や学童保育を含む保育料などを軽減しています。小学生以上を対象としたものでは、校外学習費用の助成や、給食費の半額助成、また副教材費として小学生に年間15,000円、中学生に年間30,000円の商品券を給付しています。さらに学校給食で地域生産品を積極的に活用することで、地産地消とともに食育に取り組み、健やかな成長を後押ししています。

暮らし応援 いいね！ポイント

2 定住者にむけた住まいの支援制度を設置

新婚世帯、子育て世帯、単身勤労者に向けて、町営住宅の家賃補助や入居基準の緩和を行っています。どの住居を選ぶかによって、家賃補助もしくは入居基準緩和のどちらが適用されるかが決まっています。

移住者voice

定住促進住宅制度が移住の助けになりました

元々福島県に住んでいましたが、大学の頃災害に遭った佐用町でのボランティアに参加。それがきっかけで佐用町役場に就職し、移住しました。暮らす場所としての土地勘がなく不安でしたが、役場の担当者から町営定住促進住宅を紹介してもらったことで、住まいを探すための負担が減った上、家賃の補助も受けられたので大変助かりました。

佐藤 仁勇さん(2011年より移住)



暮らし応援 いいね！ポイント

3 子どもも大人も学べる文化施設が豊富



西はりま天文台

一般公開用として世界最大のなやた望遠鏡があり、天体観望会を行っています。



ひょうご環境体験館 (はりまエコハウス)

実験、エコ工作といった体験プログラムや映像・展示を通して、環境の大切さを学べます。



佐用町昆虫館

昆虫をはじめとする各種生物の標本展示や、子どもを対象とする体験プログラムを実施しています。

暮らし応援 いいね！ポイント

4 子どもからお年寄りまで暮らしやすく

町の東西方向を通る国道179号、南北方向を通る国道373号が道路網の基軸です。鉄道では、智頭急行株式会社の智頭線が南北方向に、JR姫新線が東西方向に通い、姫路市への移動も便利。山間部の多い町内では、車を利用しない町民が外出しやすいよう、コミュニティバスの運行やタクシー運賃の助成、デマンド交通などの支援サービスを行っています。

check! 滞在できる田舎暮らし体験事業で 移住後の暮らしをイメージ

町への定住や観光を促進するため、町内の宿泊施設への滞りと、空き家の紹介や先輩移住者との交流、そして観光をセットにした事業「佐用にきてーな」を行っています。申込者の希望に合わせてプログラムを組み合わせることができ、上に、宿泊費、参加費は無料(入館料・材料費などのプログラム実費と食事は参加者負担)。自然豊かな町をもっと身近に感じていただけます。

宿泊施設
「ゆう・あい・いし」



みなさんのお越しを
お待ちしております！

佐用町 わがまち 自慢

歴史、自然、文化のみどころいっぱい！
世界に開かれた科学技術都市です

■問い合わせ先

佐用町 商工観光課 定住促進室 TEL:0790-82-0670
<http://www.town.sayo.lg.jp/>

上郡町

ゆったりとした時間が流れる
健康的な暮らしを支援

DATA

人口 16,154人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 150.26km²
世帯数 6,499世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 110.7人/km²(国勢調査 2010年)

歴史、文化、自然と、 新しい産業を育むまち

町の中央を清流、千種川が流れる自然豊かな地域です。JR山陽本線と智頭線との分岐点となる「上郡駅」があり、京阪神地域や山陽・山陰地域などとの交通の要衝になっています。北東部には播磨科学公園都市やSPRING-8などがあり、新たな産業の場として注目されています。また、古代の山陽道を往来する人々の中継施設であった山陽道野磨駅家跡、白旗城跡、平経盛の墓と伝えられる平家塚といった数多くの史跡や、さくら園をはじめ季節の花木を楽しめるスポットもあり、充実した余暇を過ごせます。



白旗城まつり

暮らし応援 いいね!ポイント

1 住まいに関わる支援制度で 移住・定住をバックアップ

移住者を対象に、中古住宅の購入費用の助成や新築住宅に対する固定資産税の免除など、定住を後押しするさまざまな施策を行っています。また空き家情報の提供や空き家見学ツアーを実施しており、住まいのイメージを明確にすることも特徴の一つ。さらに移住された方同士が交流できる「移住者の集い」を開催し、移住後のコミュニティ形成も支援しています。

移住者voice

定年後のゆったりとした 田舎暮らしを楽しんでいます

これまで日本各地で暮らしていましたが、定年退職を機に移住。新築戸建で平屋、バリアフリー、家庭菜園スペース付きなど希望の住居を構えることができ、ゆったりとした田舎暮らしが送れそうだったことが決め手となりました。現在は、町の高齢者大学で野菜や草花の栽培方法を学んだり、社会福祉協議会のボランティアなどに参加したりしています。義母との同居もこの地で始めましたが、心の込もった介護サービスを受けられました。



忠政 守さん(2013年より移住)

暮らし応援 いいね!ポイント

2 自然を生かした特産品や体験施設

豊かな自然を生かし、特産のモロヘイヤやブドウ、ナス、メロンなどが栽培されています。特にモロヘイヤは、うどんやせんべい、ようかんなどさまざまな製品に加工されています。また、自然を身近に感じられるよう整備された森林、「上郡森林体験の森」では木工やシイタケ栽培、林業体験などが楽しめます。



森林体験の森

暮らし応援 いいね!ポイント

3 子育て世帯に優しい支援制度が充実

新築・中古住宅取得者が対象となる子育て支援金制度は、義務教育終了前の子ども1人目1万円、2人目2万円、3人目以降3万円を商品券で給付します。また子育てに関わるさまざまな相談への対応をはじめ、子育て教室やまちの子育てひろばなどの取り組みを実施する子育て学習センターを設置。特に2015年に改修されたばかりの子育て学習センターは、放課後にも児童たちが集まれるよう施設を開放しており、健やかな子どもの成長をサポートします。

check! 町民の健康的な暮らしを 町をあげてサポートしています

2015年に「健康なまちづくり基本条例」を制定。健康に関わるイベントなどに参加すると商品券に交換できるポイントがもらえる「モロげんきくん健康ポイント制度」や、100万歩の達成をめざして毎日の歩数を記録する「円心ウォーク百万歩運動」など、健康でいきいきとした暮らしをサポートする各種制度が設けられています。



上郡町 わがまち 自慢

健康なまちづくりに取り組む
「さわやかに歴史と未来の出逢うまち」です!

問い合わせ先

上郡町 企画政策課 TEL:0791-52-1112
<http://www.town.kamigori.hyogo.jp/>

赤穂市

赤穂義士の精神が息づく
ほどよくすべてが整うまち

子どもたちの
すこやかな成長を
しっかりサポート!

DATA

人口 49,944人(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
面積 126.86km²
世帯数 20,284世帯(住民基本台帳 2015年1月1日現在)
人口密度 398.2人/km²(国勢調査 2010年)

播州赤穂駅を中心に全てが集う 暮らしやすいコンパクトなまち

県南西部に位置し、南に播磨灘を有する赤穂義士発祥のまちです。赤穂城跡をはじめとする歴史遺産、温泉、桜が美しい公園、釣りを楽しめる千種川など、数多くの見どころにあふれ、牡蠣やアナゴといった新鮮な海の幸も豊富。また姫路や神戸、大阪へのアクセスに優れた「播州赤穂」駅を中心に広がる市街地は、子育て世帯や高齢者にも優しい平坦地。駅周辺に病院や学校、図書館、市役所などの公共施設、商業施設が揃い、快適に暮らせる環境です。



赤穂城跡

暮らし応援 いいね!ポイント

1 住まいにかかる費用をサポート

市内への転入者を対象とする支援金や住宅を取得する若者世帯への支援金の交付、また新婚世帯の家賃の一部を助成する制度を設けています(定住応援商品券での交付・助成となります)。転入者への助成はセカンドライフを迎える世代も対象となり、幅広く支援を行っています。

- ① 転入者定住支援金:商品券20万円を助成※
- ② 若者世帯住宅取得支援金:商品券20万円を助成※
- ③ 新婚世帯家賃助成:月額最大1万円の商品券を最大3年間助成※

※①、②はこども加算あり、③は転入者加算あり
※支援金の交付や助成の条件、対象者などは、赤穂市HPをご覧ください

移住者voice

生活にかけるものは必要最低限なのに、 心はとても豊かになれる、そんなまちです!

ガラス作家として制作に打ち込める環境を探していたところ、赤穂御崎の海に出会い、ここに工房を構えたいと思いました。今は御崎地区に「御崎ガラス舎」を構え、作品制作や販売、体験教室の実施とともに、赤穂の情報も発信しています。海も山も川もあり、地元の魚や野菜はおいしく、城下町の文化が根付く赤穂は、生活にかける必要最低限なものがあるだけでとても心が豊かになれるところ。特に飽きることのない瀬戸内の海や島々の景色を見ていると、思い切っ

オカモトヨシコさん(2013年より移住)



暮らし応援 いいね!ポイント

2 移住者の集うサークルが心強い

移住してきた人同士が集まって生まれたサークル「穂愛留(ほめーる)」では、月に1回の定例会のほか、赤穂義士祭への参加など地域の行事に積極的に参加。移住を希望する人の相談にも乗るなど、赤穂の暮らしを楽しみながら定住支援にも取り組んでいます。



赤穂市 わがまち 自慢

豊かな自然と文化にあふれ、
暮らしの基盤が駅周辺に集まる

問い合わせ先

赤穂市 市長公室企画広報課 TEL:0791-43-6867
<http://www.city.ako.lg.jp/index.html>

主な移住・定住支援制度

就労・起業支援

就労支援・就職相談

下記ハローワークのほか、独自の求人情報の提供や就職相談窓口を設置している市町もあります。

播磨圏域のハローワーク

ハローワーク加古川	☎079-421-8609
ハローワーク姫路	☎079-222-8609
ハローワーク姫路 大手前庁舎	☎079-222-4785
ハローワークステーション姫路	☎079-285-1186
加西市 ふるさとハローワーク	☎0790-42-7600
ハローワーク龍野	☎0791-62-0981
ハローワーク龍野 相生出張所	☎0791-22-0920
ハローワーク龍野 赤穂出張所	☎0791-42-2376

起業家支援

各市町で事業計画の作成、資金調達などの各種相談や資金融資などに対応する起業家支援窓口を設けています。起業費用の助成、店舗の建築・改修費用や賃借料への助成制度を設けている市町もあります。

創業支援相談窓口

姫路市(姫路商工会議所内)	☎079-223-6557
相生市(相生商工会議所内)	☎0791-22-1234
加古川市	☎079-427-9756
赤穂市(赤穂商工会議所内)	☎0791-43-2727
高砂市(高砂商工会議所内)	☎079-443-0500
加西市	☎0790-42-8740
宍粟市	☎0790-63-3127
たつの市	☎0791-64-3156
稲美町	☎079-492-9141
市川町	☎0790-26-1015
福崎町(福崎町商工会)	☎0790-22-0558
神河町	☎0790-34-0002
太子町(太子町商工会)	☎079-277-2566
上郡町(上郡町商工会)	☎0791-52-3710
佐用町	☎0790-82-0670

就農支援

農家の方から営農指導を受けられる研修制度や、農業用機械・施設、種苗、薬剤など営農にかかる経費の助成制度、また農地の貸し手と借り手を結ぶ農地バンク制度など、新規就農をめざす方を支援しています。

対象市町

[研修制度] 姫路市、加古川市、加西市、太子町、上郡町
[経費助成] 加西市、宍粟市、たつの市、稲美町
[農地バンク] 稲美町、太子町
[有機農業助成] 市川町

子育て支援

医療費助成制度

中学3年生までの乳幼児、児童、生徒に対する医療費自己負担額の助成制度を全ての市町で実施しています。さらに多くの市町で、医療費の全額助成を実施しています。

対象市町

姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町

ファミリー・サポート・センター

育児援助を必要とする人とできる人をつなぎ、地域の子育てを支援する制度です。保育所・幼稚園への送迎や保護者が外出している間の預かりなど、さまざまな育児援助を各種条件の下で行っています。

対象市町

姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、神河町、上郡町、佐用町

出生祝い金

対象市町に住む方が出産した場合にお祝い金を給付する制度で、相生市、佐用町では出生児一人当たり5万円、稲美町では町の特産米「万葉の香」2万4千円相当の引換券を贈呈しています。

対象市町

相生市、赤穂市、たつの市、稲美町、佐用町

保育料軽減制度

安心して子どもを生み育てられる環境づくりを目的として、全ての市町で保育料の多子軽減制度が設けられています。特に相生市では、市立幼稚園に通う子どもの保育料が第1子から無料となる制度を導入しています。

対象市町

姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町

地域子育て支援拠点事業

地域の子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場所を開設しています。育児相談をはじめ、地域の子育て関連情報の提供や子育てに関する講習等を実施。子育て世帯同士の交流の場として利用されています。

対象市町

姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町

播磨圏域15市町の主な移住定住支援制度をご紹介します。

※各制度の詳しい内容や適用条件などは、各市町等にお問い合わせください

住居支援

空き家バンク制度

市町内の空き家情報を、住まいを探す方へ提供しています。また空き家バンクを利用して住まいを決めた方を対象に、物件の改修費用や引っ越し費用を一部助成する制度を設けている市町もあります。

対象市町

姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、市川町、福崎町、神河町、上郡町、佐用町

住宅補助金・減免

他の市区町村から転入される方の住宅取得資金を助成する制度です。神河町では町内に住宅を取得する若者世帯を対象に最大150万円の補助を行うなど、住まいへの支援が整備されています。

対象市町

相生市：定住者住宅取得奨励金、
新婚世帯家賃補助金
赤穂市：新婚世帯家賃助成、
若者世帯住宅取得支援金、転入者定住支援金
高砂市：新婚世帯家賃等補助金、
新婚・子育て世帯新築住宅取得奨励金
加西市：新婚家賃補助、若者住宅取得補助制度
宍粟市：若者定住助成、宍粟材の家づくり支援
たつの市：転入者住宅取得奨励金、
若者住宅取得奨励金、
空き家活用支援事業補助金
稲美町：田園集落まちづくり住宅新築促進事業、
親元近居新築住宅取得支援補助金
(親元に住もう補助金)
神河町：若者世帯向け家賃補助制度、
若者世帯住宅取得支援制度
上郡町：新築住宅固定資産税課税免除、
中古住宅取得費補助交付
佐用町：新婚・子育て・単身勤労者の公営住宅家賃減額／
入居収入基準の緩和

医療制度

夜間・休日診療

夜間や休日の急患に対応するため、主に内科・小児科を対象とした診療体制が整っています。姫路市、加古川市(夜間)、たつの市には急病センターがあるほか、各市町で対象となる病院・診療所に対応しています。

対象市町

[夜間診療] 姫路市、加古川市、赤穂市、高砂市、
宍粟市、たつの市、稲美町、市川町、福崎町、
神河町、太子町、佐用町
[休日診療] 姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、
高砂市、加西市、たつの市、稲美町、市川町、
福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町

救急医療電話相談

常駐する看護師が、症状に応じた応急手当などのアドバイスや医療機関の紹介などを行います。姫路市では小児科対象の電話相談を開設。加古川市、高砂市、稲美町は、東播磨圏域小児救急医療電話相談窓口(夜間)の対象となっています。また加西市では、出産後の産後ケア専用の電話相談窓口を開設しています。

対象市町

姫路市、加古川市、高砂市、加西市、稲美町

病児・病後児保育

病気にかかり保育所などに通えなくなった子どもを、仕事によって保護者が養育できないときに市町内の施設で預かる制度です。病気の状態にある子どもへの保育を病児保育、病気が回復しているものの完治には至っていない子どもへの保育を病後児保育といい、対象市町で支援体制が確立されています。

対象市町

[病児・病後児保育] 姫路市、加古川市、加西市
[病児保育] 高砂市
[病後児保育] 相生市、たつの市

移住・定住支援窓口

移住・定住を強力にサポート！ カムバックひょうご 東京センターがオープン

兵庫県への移住・定住相談窓口として、東京駅近くに「カムバックひょうご東京センター」を開設。移住に関する相談や情報の提供、各種イベントなどを行い、U・J・Iターンを考えておられる方をバックアップします。

東京都千代田区大手町2-6-4
パソナグループ本部地下ビル1F
●JR「東京」駅
日本橋口から徒歩約3分
●東京メトロ「大手町」駅
B9出口から徒歩約1分
●東京メトロ「日本橋」駅
A1出口から徒歩約1分

